











































































































































































































































































































# 被検体選定稟議書

承認

姓名 桃丘 沙織

フリガナ トウカ サオリ

158cm 52kg

B94(H) W60 H86

年齢 24歳 血液型 A型

処女/非処女 非処女

## 人物像

社内の事務を担当しており、恵まれた容姿や人当たりの良さから社内外に慕われるアイドル的な存在。

高収入な交際相手を希望しており、品評会(後述)での落札者への引き渡しは、当人の意向に合致するものと思われる。



## 投薬試験概要

バストアップを希望する女性をターゲットとした試験薬を胸部への注射にて投与し、外部刺激による発達を促す。

尚、試験薬には摩擦・圧迫などの刺激に対して、過度に敏感になる副作用が懸念される。

また注射部周辺への性的刺激は体内ホルモンの過剰分泌を引き起こす可能性があり、乳房・乳頭の肥大化ならびに乳腺の発達異常の経過についても観察する必要がある。

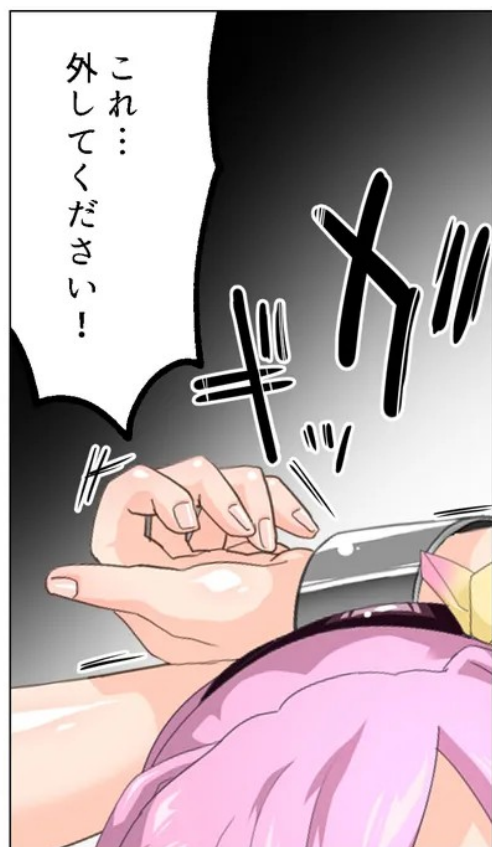
試験終了後、被検体は品評会へ出展し購買希望者を募る。

品評会での落札者へ引き渡し、被検体の処分を完了するものとする。









これ…  
外してください！



いきなり実験体  
とかって…

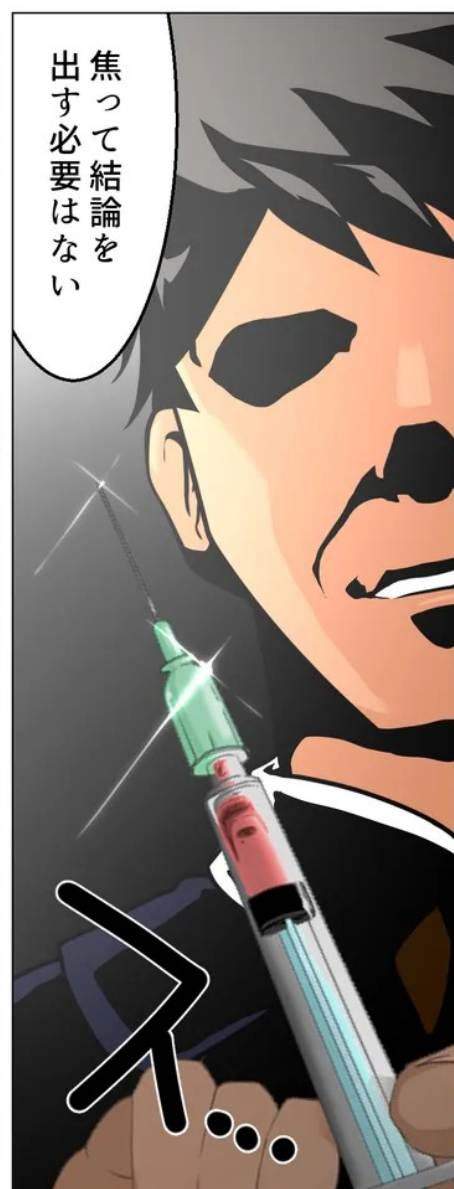
そんなの  
絶対にイヤです！



いッ!?

さ。

考えられないくらい  
キモチ良い体にして  
あげるから



焦って結論を  
出す必要はない











乳首の穴までだらしく  
広がってるじゃないか！

ほらミルク穴に舌が  
入っちゃうぞお♥

んん  
桃丘さんの母乳って  
甘くてちよつと  
苦いんだね♥

私のおっぱいに  
勝手なことしないで!!

やだっ!!

やつ...









あちやーお漏らしまで  
しちゃって  
はしたないなあW

むゅ...♡



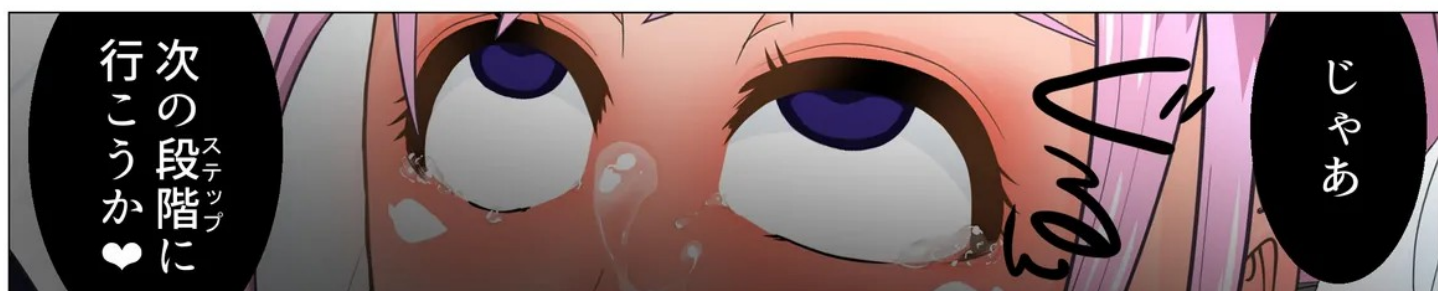
こんなのが  
気持ち…イイなんて…

私の体…  
どうなってるの…？

あ…

かはっ…

立派な穴あき爆乳に  
なれたねえ桃丘さん



じゃあ

次の段階に  
行こうか♡













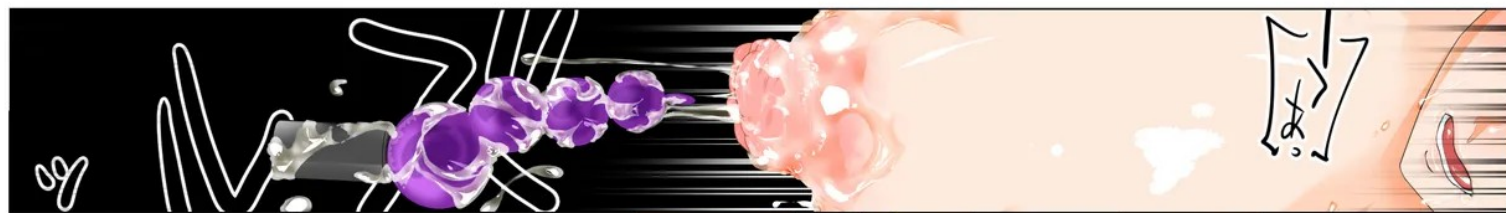








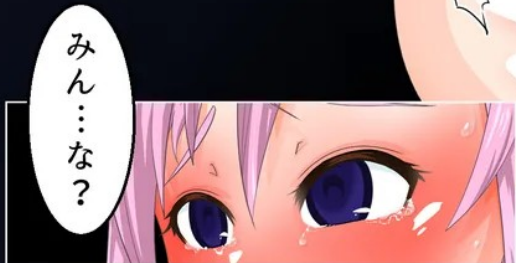








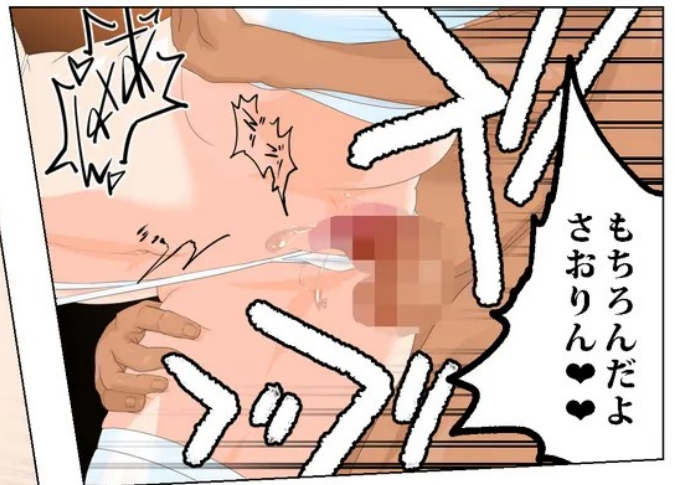




















みんな…見て♡

沙織のおっぱい  
大きくなった  
だけじゃなくて…

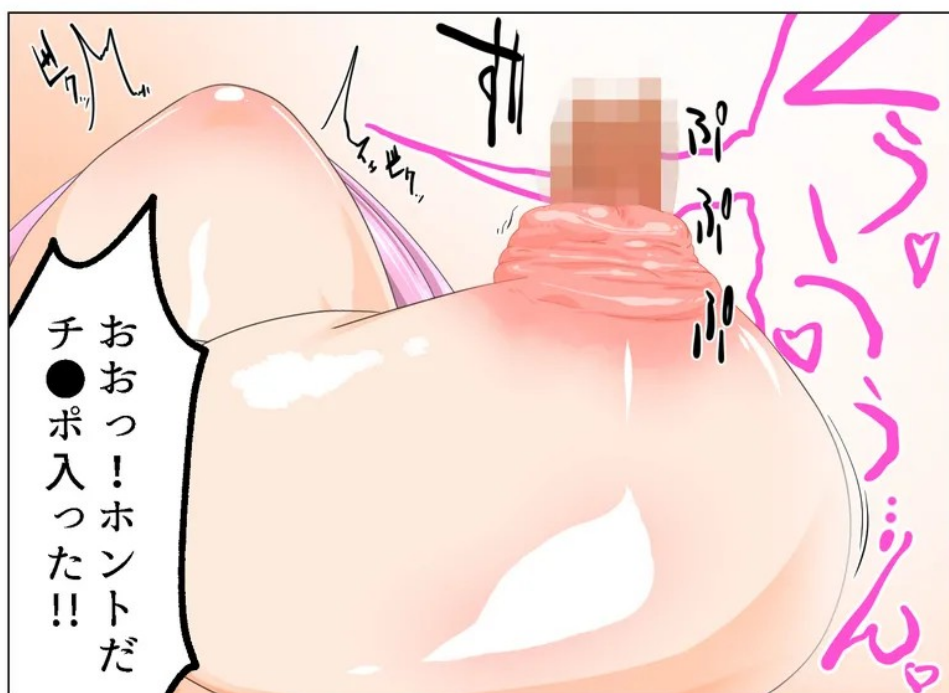
おま●こに  
なっちゃったんです♡

すにゅ…



ウズウズして  
切なくて  
どうしようも  
ないの…♡  
だから…

皆のチ●ポで  
オナホール  
みたいにな  
ズコズコし  
てください♡



おおっ！ホントだ  
チ●ポ入った!!

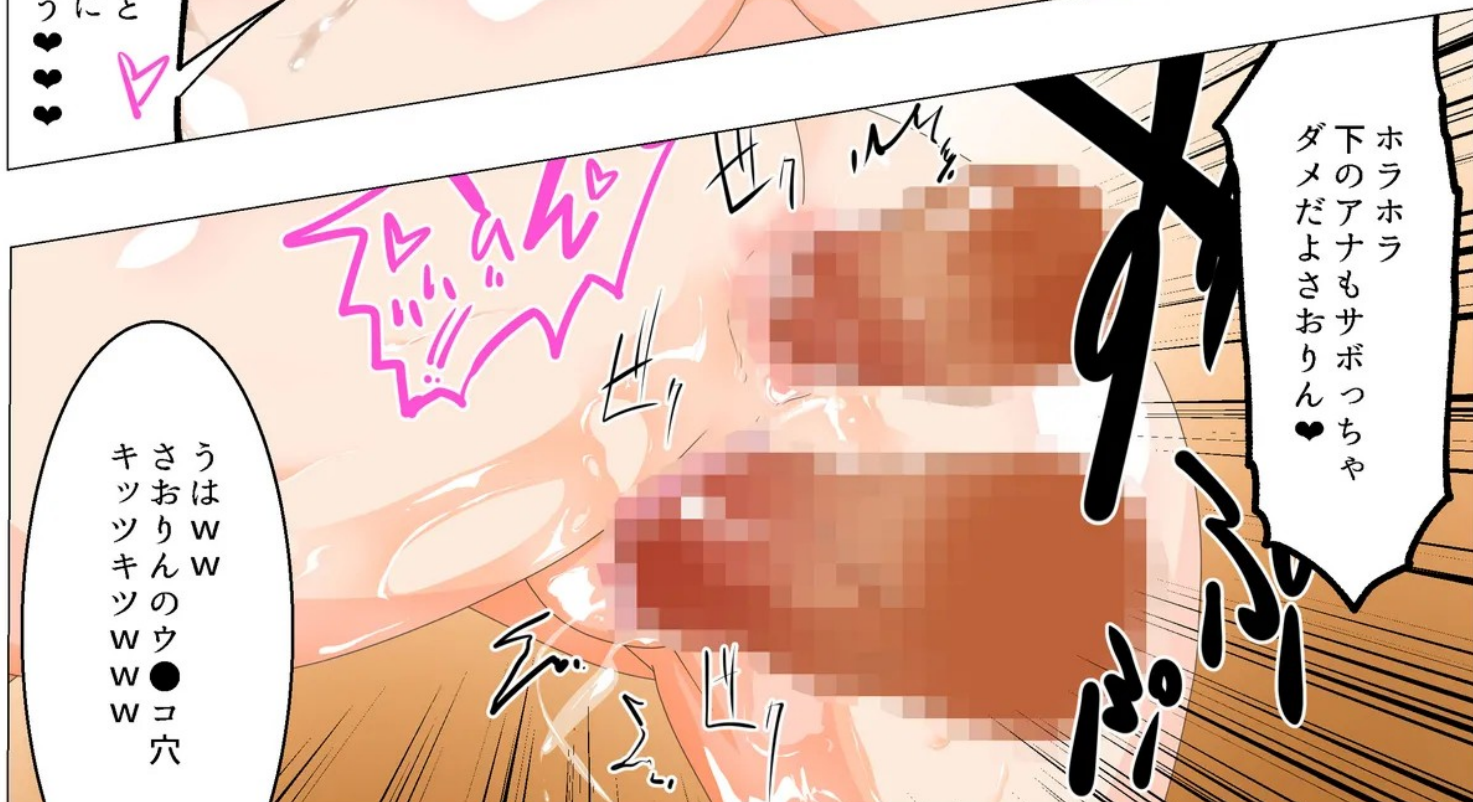


マジかよさおりん…

こう…か？

すにゅ♡







すごいぞさおりん  
ぜんけつ  
全穴ファックだ!!

ぐ  
ぐ  
ぐ

ぐ  
ぐ  
ぐ

イッて♡

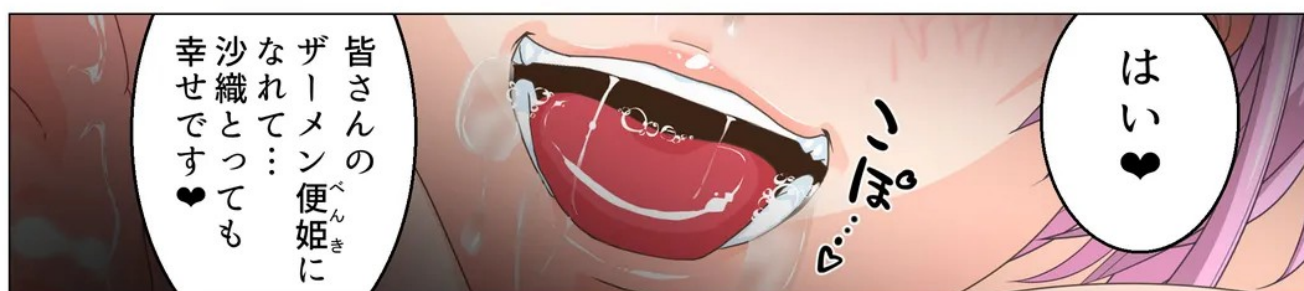
全身マ●コにみんなの  
こつてりザーメン  
ぶちまけてええええ♡♡













社長室

素晴らしいぞ  
あぶやい  
藪相クン！

ありがとうございます  
社長！

清纯派気取りの桃丘クンを  
ここまで従順なオナホに  
仕立てるとは！

ふう…

実によくデキた  
全穴オナホ娘じゃ

そらッ！  
ご褒美ザーメンじゃ  
桃丘クン！！











どうじゃあ!!  
ワシが前立腺で  
育てた淫蟲は!!

のッ!!



肉穴全部にタマゴ  
植え付けて淫蟲の  
苗床にしてやるぞお♥

ウネ

グッ

グッ

グッ





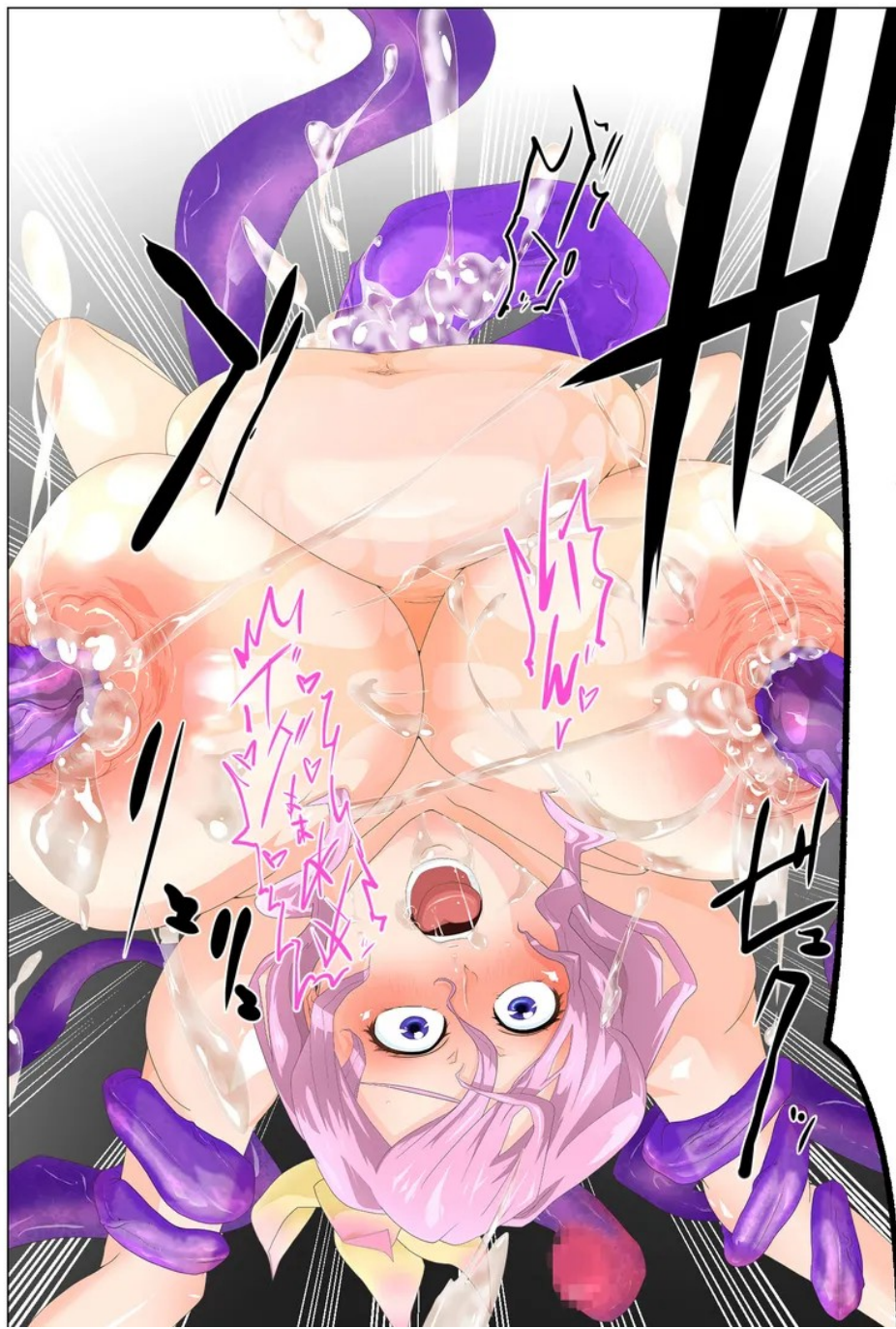
よく言ったアア!!



たまご♡

奥までほぐり込まれて  
ずっと気持ちいいですっ♡

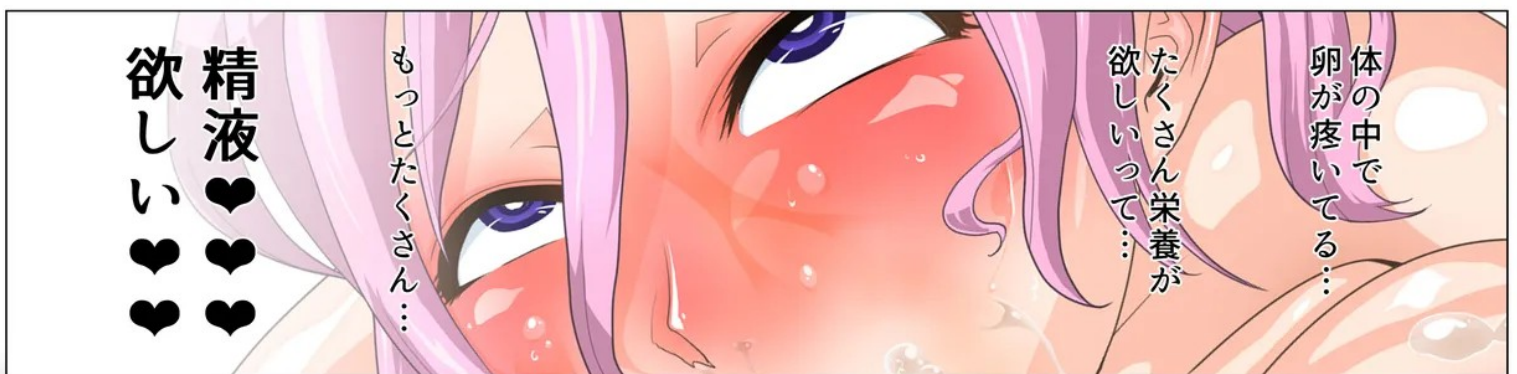
社長の卵たくさん注入して  
産卵アクメさせてくだひゃい♡



そら全部のマ●コに  
孕ませてやるぞオオ!!











あ…♥穴の中が…疼いて…♥



出てきよったぞお

待望の  
出産シーンじゃ!!



おおく藪相クンの  
ミルクが欲しいか!

苗床には栄養が  
不可欠じゃからなあ…  
特濃精液をたっぷりと  
注いでやるんじゃぞ♥

はい!社長



おち●ぽガマンできない♥じゅ

こんなにおいしいおち●ぽ  
しゃぶってたらもう私…  
嬉しくてパカになっちゃう…♥







とうか  
さおり  
桃丘 沙織クン

きみは卒業だ

じゃあまよ..

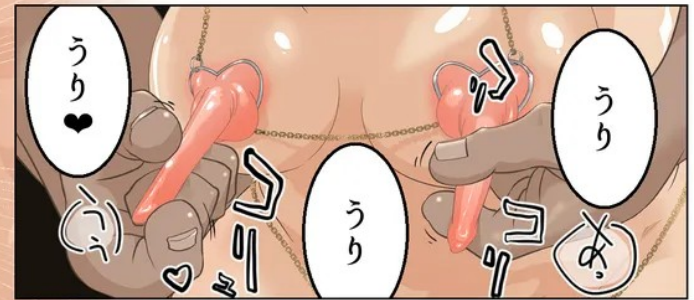


品評会への出展を  
許可する！





品評会場





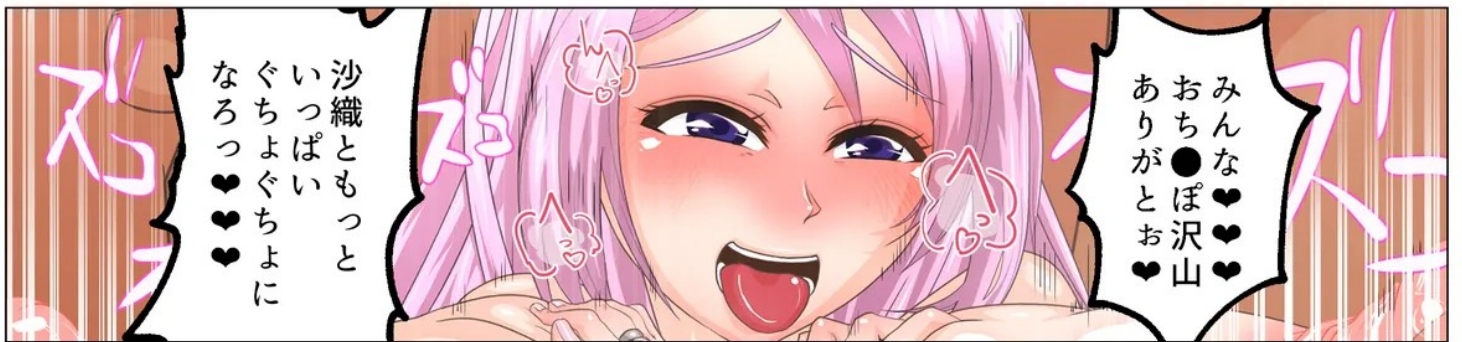






うおおお沙織んんん♡  
タマゴ満載ボディ最高すぎる♡♡

うねって絡みついて  
全部吸い上げられちゃう♡♡



みんな♡♡♡  
おち●ぽ沢山  
ありがとお♡

沙織ともっと  
いっぱい  
ぐちよぐちよに  
なるっ♡♡♡



犯して♡♡

イッて♡

何度も  
孕ませてえ♡♡♡



みんなのち●ぽで  
ほじくり尽くして…

何発でも種汁注ぎ込んで  
沙織の便所穴をいっぱい  
愛してください♡♡♡



# 奥付

このたびは「魔改造性薬(株) Case01 沙織編」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

処女作となる本作ですが、お楽しみいただけましたでしょうか。

まだまだ拙い部分もあるかと存じますが

今後も、ちょっとマニアックで下品な作品づくりを目指して頑張りますので、シタタッテルの作品をお楽しみいただけましたら幸いです。

ぜひとも「こんなシチュ描けるやろ」とか「こんなのが見たい」というリクエストなどお寄せいただけましたら励みになります。

ちなみに「魔改造 ●●」はシリーズ化を予定しており、シリーズ次回作は、最後に出てきたレナ(長い先っちょのもじゃ毛ちゃん)とマリ(メガネ)の2人の変遷を描けたら、と考えていますが遅筆なものでいつになるかはわかりません。

それでは、次回作でお会いできましたら光栄です。

拙筆が皆様のおいしいおかずになりますように。

2020年吉日 さかてのレフティ



藪相は、何十発もの精液にまみれた沙織の体に覆いかぶさった  
「今日も皆にたくさんご奉仕したね。お疲れ様」

男性社員が入れ代わり立ち代わり一日中執拗に犯し込んだ肉穴。  
注射によって肥大化した彼女の乳房は、今や立派な生殖器と化している。  
シリコン製オナホールと大差ない掴み心地と用途の乳首を握りつぶす。  
指の間からもはみ出すヌルヌルとした粘膜の感触を楽しんでいるうち、  
巨大な乳首全体が硬い弾性を帯びる。  
通常の乳首でいえば勃起している状態。

肉穴と化して尚、沙織の乳首はその機能を残しているが、  
常識の域を出た大きさのそれはまるで一体の生物のようにうねり、隆起する。

「おっぱいオナホール握り潰されるのっ…気持ちイイです」

沙織が潤んだ瞳で藪相を見つめる。

「おち●ぽ…ください♡  
乳首ま●こりこり握られたら、ガマンできません♡」

もはや彼女は生殖器の塊。

藪相は沙織の股間に自らの男根を押し込んだ。  
彼女の腔内で泡だつた精液と愛液が、行き場を失って肉の隙間から噴き出す。  
挿入の快感に沙織の体は小刻みに跳ね、巨大な乳房に鳥肌が浮かんた。

「はあああっ…主任のおち●ぽ大好きです」

「誰のかわからない精液が内壁に相当こびりついてるね…  
綺麗に磨いてあげよう」

藪相はカリ首で精液をかきだすように、長いストロークで腰を振る。  
使い込んだ肉穴独特の絡みつきが、彼のペニスを襲う。

「おほっ♡お願いします♡」

沙織のザーメン便器穴、主任のおち●ぽでゴシゴシして♡」



「はあっ…イクっ♡イクイクイク——いつ…♡♡」

沙織の肉穴が激しく痙攣し、藪相の肉棒を締め上げる。今日だけで何度も絶頂している腔内は、いとも容易く快感の閾値を超える。藪相もたまらず腔内に子種をぶちまける。何人もの精液、愛液、汗に唾液——あらゆる淫らな体液で混沌とした肉壺に注がれる新たな子種。藪相の精液は、その日注がれた誰のものよりも多量。それは異性としての感情以上に、研究対象へ捧げる愛。桃丘沙織がその身に孕むのは、誰の子種か、誰との胎児かに関わらず、この男の研究結果そのものである事実は揺るぎなかった。

「沙織のおま…主任の種汁いっぱい飲んで…♡」





「ゆるめちゃダメだよ桃丘さん」

そう言い残して藪相はペニスをゆっくりを引き抜く。健康にも言いつけを守る陰口はきゅっと閉まり、竿の尿道に残る精液さえも一滴残さず吸い上げた。

「うう…おナカいっぱい…」

びったりと閉じ、セックスの熱を閉じ込めた産道。意識が股間に集中する。出口を失った藪相の新鮮な精子が、まるで蛇となつて膣内をのたうつように感じた。沙織は、肉ヒタの谷底まで凌辱される感覚に身震いする。

「こうしてるだけで…またイッちゃいそう…」  
「こっちのおま●こも綺麗にしようね」

そう言つて藪相は沙織の乳房を掴み上げ、ディルドを挿入した。

「ふあああああっ……!!」

ディルドのうねりのリズムに伴つて、沙織の乳房も一定のリズムでのたうちまわる。体の一部でありながら意に反して弄ばれ、一方で快感だけを脳の奥深くに叩きつけてくる乳房。

「うねうねして恥ずかしいのに…おっぱいま●こ気持ちいい…♡」

乳腺の中でミミズたちが慌てふためく。

それらは、沙織自身が分泌する母乳と外から注がれる精液を養分にしてコロニーを構築し、常に繁殖行為を行っている。二房の沙織の乳は、さながらミミズのラブホテルである。

外からの刺激や乳房の揺れに応じては群衆が一挙に泡立ち、好き勝手に暴れまわり、乳腺を内側から凌辱する。

沙織は乳房を犯されるとき、外だけでなく中からの刺激でも扶み撃ちにされるのだ。

「おっぱいのナカで暴れてる…ダメっガマンできないっ」



「おっぱい……おっぱいの奥……かきまぜられてイッちゃうぅぅぅ!!」

沙織が大声で叫ぶ。  
強烈な絶頂感が彼女を突き落としたのだ。

ティルドが乳房をかきまぜ続けた結果、ミミズが暴れ、母乳が分泌され、上昇する内圧に耐えきれずにしぶきとともにティルドが押し出される。追って、精液と母乳が混ざった濃厚な淫汁の濁流に絡まった何匹かのミミズが飛び出す。更に乳房から全身を貫く快感が、瞬、淫唇の隙間を生じさせ、先ほど閉じ込めた数相の精液が漏れた。一筋漏れれば、その刺激によって精液を溜め込んだ膣のダムは決壊し、まるで自分が射精しているかのような、極めて男性の絶頂に近い快感が沙織の脳天に閃いた。

「だめえッ全身から射精しちゃう!!」

沙織は全ての穴からの排泄を諦めた。  
全身から漏れた粘液の奔流に屈服し、自らの意識もまた排泄の快感に流されるまま、溜め込んだ全てを進んでひり出した。





藪相は、方々の穴から漏れ聞こえる下品な水音を嬉しく思っていた。

「ありあ：なんてはしたない」  
「ごめんなひやい…：沙織…：ガマンできなくつてえ…：♥」  
「お漏らししちゃったんだ」  
「おもらしと、しやせえと、ぜんぶして、イッちゃいましたあ♥」  
「桃丘さんは本当に下品な女の子だね」  
「そうでしゅ…：げひんな全身おま●こ女です…：だから…  
おもらししちゃったこのドブ穴…：おち●ぼでふさいでくだひやい♥」  
「仕方ないなあ」

藪相は再び沙織の体に覆いかぶさった。  
人間の出す汁という汁にまみれて二人は快感を食る。  
沙織は、生殖器や肛門、乳房はおろか、内壁のヒタや毛穴のひとつひとつまで  
精液に犯されてゆく恍惚に溺れた。

一方の藪相は、彼女が更に淫らに、更に愚かしく肉欲を貪るよう祈る想いで彼女を犯し続けた。  
明日は社長による監査がある。  
社長はこの肉穴を気に入らるだろうか。  
沙織は社を上げて桃む品評会の本命である。  
自分の研究が実りを迎えるよう、何度も何度も藪相は沙織を犯し、共に果てて行つた。

